古墳築造当初の状態を良好に残していたのでした。 円部で見つかった遺構です。後円部上の平坦面は、 れているのが今回紹介する「石敷区画」と呼ぶ後 甲立古墳の発掘調査で最も重要な発見と評価さ

状に敷き並べ長方形状?の区画をに15m~30m大の河原石を石列に15m~30m大の河原石を石列に削られています)の範囲におも つくっています。

詰めていました。 家形埴輪はこの (1号~5号) が一列に配置さ 各個体周囲には河原石を敷き それぞれの家形 中 央部分に5個

短辺は約3 m

(南東の一辺が後世

0)

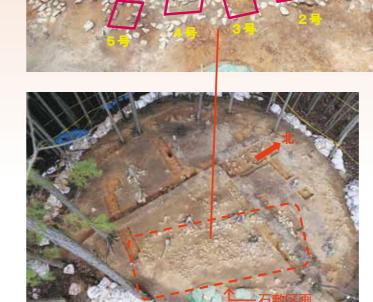
(原田)

られる遺構です。長辺6・3m、 の区画内に配列した祭祀遺構とみ 側で確認された家形埴輪5基をそ

「石敷区画」

は後円部墳頂南東

した。 並びの構成であることがわかりま 3号が特殊な囲い状建物、 規模の切妻造点床式建物、中央のでした。北から1・2号がほぼ同 す例としては初めてとい 査例では部分的に確認された例は ありましたがほぼ全体の状況を残 れることは、 4・5号が小型の家形埴輪という 後円部墳頂で家形埴輪が確認さ



甲立古墳後円部「石敷区画」

保った状態で出土しました。 埴輪の基底部は動い 古墳が造られた当初の位置を た痕跡はな

るような方向性で置かれてい 列に交互に長辺、 長軸方向に合わせこの中央に一家形埴輪は45~50㎝間隔で区画 短辺が入れ替わ 南側の たの

部の上にどのように並べられていでわからなかった家形埴輪が後円 たか、 埴輪祭祀の実像に迫る大発見なの そこから見えてくる古墳の これまでの国内の調 はこれま えます。

編集後記

た日、あじさい聖苑の管理者の方とお話する機会があった。そのお別れの空間を「無言いると、「あじさい聖苑は単方によると、「あじさい聖苑は単方によると、「あじさい聖苑は単方によると、「あじさい聖苑の場が、る言葉でした。人生終焉の場が、る言葉でした。人生終焉の場が、る言葉でした。人生終焉の場が、る言葉でした。人生終焉の場が、お別れをきる言葉でした。人生終焉の場があった。その方とお話する機会があった。その方とお話する機会があった。その方とお話する機会があった。

(田村) (田村)

の表紙▼

貞

7段のひな人形の前で、はにかちゃん双子姉妹。家族の方の温かちゃん双子姉妹。家族の方の温かちゃん双子姉妹。家族の方の温からった。そんなお父さんの娘さんに対する想いが伝わってくる撮影でした。そんなお父さんの娘さんに対する想いが伝わってくる撮影でした。そんなお父さんの娘さんに対する想いが伝わってくる撮影でした。そんなお父さんの娘さんが多情に包まれてする人であるキャッチコピーです。娘を持つお父さんに共感していただければ幸いです。

